

第36回「西田メディカルクリニック講演会」の様子

胃カメラ検診あとはどうなる

～平成29年度胃カメラ検診結果より～

平成30年7月19日 穂の国とよはし芸術劇場PLATにて開催

第一部 講演「平成29年度豊橋市胃がん検診結果について」

豊橋健康増進課 海野聖子



平成29年度の胃がん検診の実際

平成28年度は、15,264名の方が受診し、がん発見率は0.10%でした。



平成29年度は、8,976名の方が受診し、がん発見率は**0.22%**でした。

うち胃内視鏡検査受診者は2,916名で、がん発見率は**0.55%**でした。

平成29年度は、対象者は半数でしたが、がん発見率は2.5倍上がりました！

H29年度より胃カメラ検診が開始されましたが、受けられる回数は毎年から2年に1回に変更されました。対象者が半数となりましたが、発見率が約2.5倍となり昨年より多くの胃がんが発見者されました。早期胃がんはいまや治るガンといわれています。あなたとあなたの大切な家族のためにがん検診を受けて下さい。 海野

第二部 講演 「ピロリ菌除菌の実際」

笑い学会報告記 「笑いで胃カメラは楽になる？」

西田メディカルクリニック 西田元彦



▶ 胃がん予防の基本は、ピロリ菌除菌
(胃がんの99%はピロリ菌が関係)

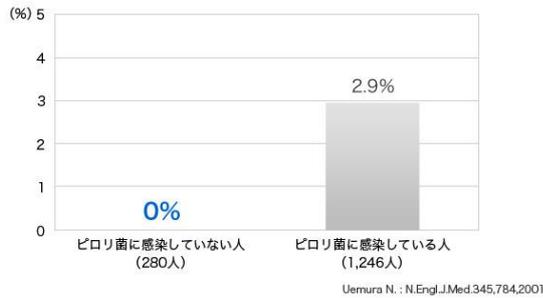
▶ 29年度胃カメラ検診で、260名が新たにピロリ菌陽性と診断

▶ 健康保険では、胃カメラを受けないとピロリ菌検査ができない

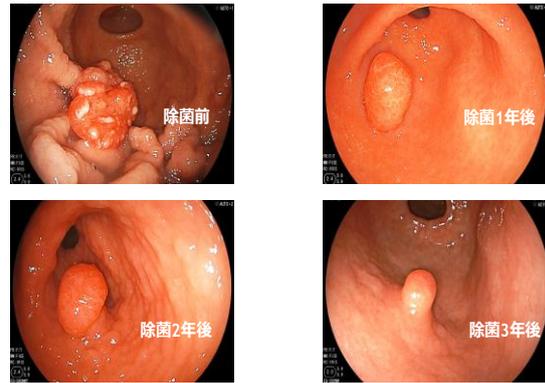
▶ 胃カメラ検診の導入で、胃がん予防につながるピロリ菌陽性者の発見、除菌を受ける機会が増えた



10年間で胃がんが発生した人の割合



ピロリ菌除菌効果 (過形成性胃ポリープ)



胃カメラ検診がきっかけで多くのピロリ菌陽性者が発見されました。当院では2年間で190名にピロリ除菌をおこない、一次、二次除菌併せて98%の成功率でした。胃がん予防の切り札とされる除菌を積極的に行うことが大切です。 西田

第25回笑い学会総会 (関西大学堺キャンパス)

笑い学会報告記 H30.7.15

「笑いで胃カメラは楽になる？」



懇親会



笑い筋マッサージ



OR



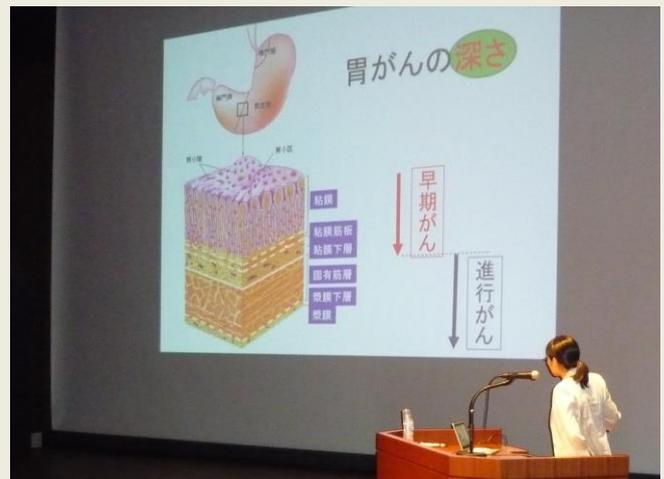
まとめ

- ▶ 胃カメラの辛さを、言葉で表す方法・顔の表情で表す方法・数字で表す方法のいずれも、笑いを取り入れて行った群が通常検査群より辛くない傾向にあった。特に辛さを言葉で表す方法では統計的に有意差を認めた
- ▶ 以前に鼻からのカメラを受けた辛さの比較で、笑いを取り入れた群が通常検査群より有意に辛くないことが証明された
- ▶ 胃カメラストレスによる心拍数の上昇が、笑いを取り入れた群で穏やかになる傾向を示した

カンザス大学のタラ・クラフト教授らの研究で箸を加えた作り笑顔をするだけでも、ストレスの係る作業が楽にできるとの報告などを参考にして、胃カメラの直前に作り笑いを取り入れることで、胃カメラのストレス軽減効果を確認し、日本笑い学会に報告しました。 西田

第三部 講演「胃カメラ検診発見胃がんの治療経過退」

豊橋市民病院消化器内科 山本洋子



消化器内科の第一線で活躍している豊橋市民病院 山本英子先生より、29年度の健診で発見された胃ガンがどのような経過で治療されたかお話ししていただきました。

アトラクション 創作落語 「検診を受けましょう」

豊橋落語天狗連 駒久家南朝



駒久家南朝として活躍する蒲郡の耳鼻科医柘植勇人さんより創作落語を披露。健康診断にまつわる滑稽な出来事を、楽しく話していただきました。



いつも多くの方のご参加ありがとうございました。

胃カメラ検診での 苦痛緩和方法語る

豊橋で講演会

「胃カメラ検診 そのあととは！」をテーマにした豊橋市の西田メディカルクリニック（吉川町）の講演会が西小田原町の穂の国とよはし芸術劇場プラットフォームで、百人の参加者が西田元彦院長の話聞いた。

西田院長は、「検診前に顔をマッサージすることや箸をくわえて笑顔を作ってもらうことで胃カメラをのみ込む際の苦痛が軽減された」と説明。胃カメラを挿入している間も緊張を緩和させて苦痛を軽くするため、「ほほ笑んでいるような表情をした犬や猫の写真を見せている」と、クリニ



ックでの取り組みを紹介した。写真。

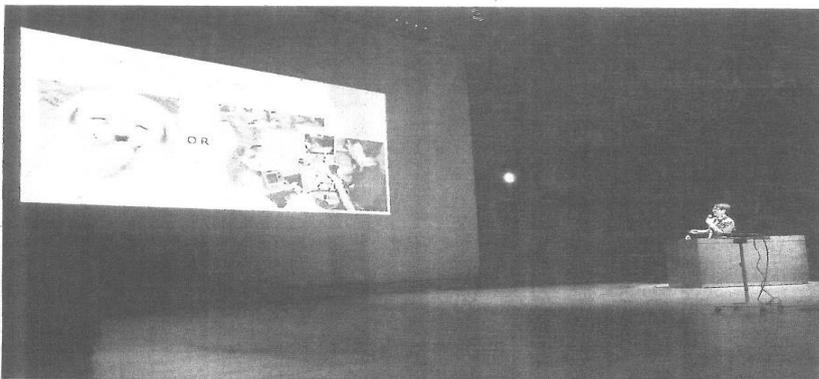
西田院長は胃がんとの関連が深いピロリ菌の除菌療法についても報告。その後、アマチュア落語家駒久家南朝として活動する蒲郡市の耳鼻科医柘植勇人さんが、創作落語「検診を受けましよう」を披露した。

豊橋市は現在、四十歳以上の市民を対象に胃がん検診を実施している。昨年には、五十歳以上が胃カメラを選択できる制度を新たに導入。がん発見率が上がったという。

胃カメラやピロリ菌学

西田メディカル クリニック 豊橋で健康講演会

豊橋市吉川町の西田メディカルクリニック（西田元彦院長）は19日、同市の穂の国とよはし芸術劇場プラットフォームで「第36回健康講演会 胃カメラ検診 そのあととは！」（豊橋市など後援）を開催。参加者約100人が胃がん検診やピロリ菌除去などについて知識を深めた。（田中博子）



胃カメラやピロリ菌除去などについて説明する西田院長＝プラットフォームで

同クリニックでは市民に向けた健康講演会を定期的に実施。厚生労働省の胃がん検診方法に新しい検査を開始、約3000

人が受診、うち胃がんなど悪性腫瘍が約0.6%、ピロリ菌陽性者が約8%発見されたことから昨年引き続き、胃カメラについての講演を実施した。最初に、豊橋市保健所健康増進課の海野聖一さんが「平成29年度豊橋市胃がん検診結果について」を報告。豊橋は胃がんの受診率が低いこと、29年度とそれ以前の検診受診状況と比較し、29年度が受診者が減ったもののがん発見率が上がったことなどを紹介。「がんは早期発見、早期治療すれば約9割が治ると言われている。がん検診を受けて」と呼び掛けた。

続いて西田院長が「ピロリ菌除去の実態」と題して講演。「胃がん予防の基本はピロリ菌除去」として、胃がんとの関連が深いピロリ菌陽性者に対して行った除菌や経過について説明したほか、「笑いで胃カメラが楽になる？」と題し、笑顔の写真をみることで胃カメラ直前の緊張が緩和され受診が楽になった事例など、笑い学会での研究報告について語った。説明